

研究主題 「ふるさとを愛し、豊かな心を育む道徳教育の実践」

～自他ともに尊重し、
よりよく生きようとする生徒の育成を目指して～

深谷市立豊里中学校

1 研究主題の設定理由

郷土の偉人「渋沢栄一翁」生誕の地を学区に持つ本校は、栄一翁が大切にしたい「立志の精神」と「忠恕の心」を学校経営の柱とし、故郷を誇りに思える生徒の育成を目指している。

学習指導要領では、子供たち一人一人が、社会に主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、あらゆる他者を価値ある存在として認め、ともに協働できるなど、幸福な人生の創り手及びよりよい社会の創り手となっていけるようにすることを重視している。本校でも、自らの可能性を發揮できるとともに、他者を価値ある存在として認め協働できる生徒の育成を目指し「自他尊重」を校訓としている。

そこで、深谷市の教育の基本理念である「立志と忠恕の深谷教育～ふるさとを愛し、夢をもち志高く生きる～」を踏まえ、豊かな心を育む道徳の授業を要するとともに、深谷の子「6つの誓い」の実践を通して、よりよく生きようとする生徒の育成を目指して、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道徳の授業において「ねらいに迫るところ」の発問を工夫し、主体的に考えさせることで生徒の道徳的実践意欲が育まれ、また、郷土教材を取り入れた授業を実践することでよりふるさとを大切にできる生徒が育つのではないか。
- (2) 渋沢栄一翁の心を受け継ぐ、深谷の子「6つの誓い」を小中の連携を通して推進すれば、「夢とこころざし」、「まごころと思いやり」を持ち、よりよく生きようとする生徒の育成が図られるのではないか。

3 研究の経過

4月18日	小中3校合同研究推進委員会	8月19日	3校合同研修会
4月25日	校内研修会①（学校研究課題）	9月1日	推進委員会
5月16日	校内研修会②	9月16日	校内授業研究④
5月19日	小中3校全体研修会	10月3日	校内研修会⑤
5月27日	校内授業研究①	10月21日	校内授業研究⑤
6月6日	校内研修会③	11月7日	校内研修会⑥
6月24日	校内授業研究②	11月9日	研究発表会
7月8日	校内授業研究③	12月～3月	今年度のまとめと来年度の計画
8月4日	校内研修会④小中3校合同研究推進委員会		

4 研究の内容

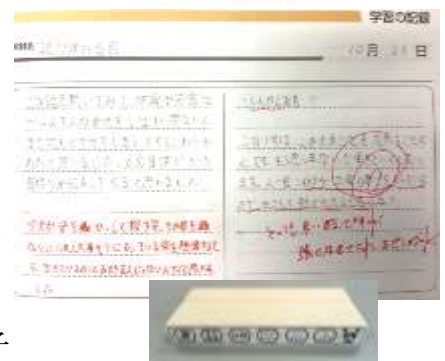
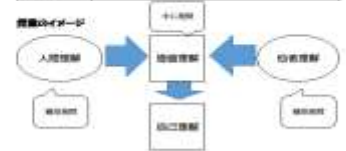
(1)授業研究部の取組

①授業の検討、実践

授業の検討や実践では、校内研修会を定期的に設けて、授業の検討を行い、道徳的価値に迫る発問を考え実践した。授業は、内容項目の確認、クラスの生徒の実態を把握し、構成を考えた。また、「彩の国の道徳」を別葉や年間計画に明記し、意図的・計画的に指導ができるようにした。さらに、右の授業作成シートを利用して、毎時間考え、記録を残すようにした。他にも、互いの授業がみられるように時間割を工夫してローテーションを行った。また、登場人物や自分の心情を生徒が iPad を使い、細かい色の変化で表し、互いに理由を探ったり、共有して深めたりする活動を取り入れた。

豊里中学校道徳授業作成シート

教科名	内容項目
主要な授業	関連する行事
1. 期間と単元	
学習理解	
人間理解	
社会理解	
自己理解	



小中の連携としては、校内授業研究会の相互参観や協議会を開催し、授業づくりの共通実践を進めた。授業検討では指導案を持ち寄り、小中合同で協議を行った。主な共通実践は、ねらいに迫る発問（中心発問）の工夫、授業作成シートの作成、授業終末における深谷の子

「6つの誓い」との関連付け、郷土教材（こころざし読本・彩の国の道徳）の活用である。「6つの誓い」との関連付けについては、中学では道徳ノートに判を押し、関連するところに丸をつけられるように工夫した。

②道徳ノートの活用

生徒が考え、交流する場を多く設けた上で、自己理解を深める場面で道徳ノートを記入した。

③道徳だよりの作成

道徳だよりは、家庭用を作成し、教材名・教材の内容・道徳的価値・生徒のコメントを載せている。家庭でも、道徳の話をしてもらうきっかけとして月に一度のペースで発行している。



(2)6つの誓い部の取組

①深谷の子「6つの誓い」の一つずつに焦点をあてた取組の実施

令和3年度7月より計画を立てて実施した。7月～9月は忠恕の心の一つである「すすんであいさつ」に焦点をあてて取り組んだ。



「元気でさわやかなあいさつキャンペーン」を開催し、授業開始と終了時の号令の姿勢やあいさつの声の大きさを5段階で評価し

令和3年度	
7～9月	私は、すすんであいさつをします。
10～11月	私は、たくさん挑戦、体験します。
12～1月	私は、夢に向かって努力します。
2～3月	私は、毎日勉強します。
令和4年度	
5～6月	私は、心のごもったことばをつがいます。
7～9月	私は、思いどくつをそぞえます。

埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

た。全校でその合計得点を競うことで、学校全校で元気にあいさつをする雰囲気作りを行った。また、生徒会本部役員による朝のあいさつ運動を定期的を実施し、生徒同士であいさつの大切さを実感できるようにした。他の活動についても、生徒たちは刺激を受け大きな教育的効果を得ることができた。



②6つの誓いの一つである「心のこもったことば」に焦点をあて、コミュニケーション能力の向上を目指し、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を実施。

令和3年度	上手な聴き方	やさしい頼み方
令和4年度	温かい言葉かけ	仲間の入り方

総合的な学習の時間を活用し、全学年でSSTを実施した。特に「温かい言葉かけ」では3パターンのお話し方を比較し、お互い気持ちよくコミュニケーションを取る方法を話し合った。グループ毎に実際に練習することで、よりよい言葉かけを体験することができた。



(3)環境整備部の取組

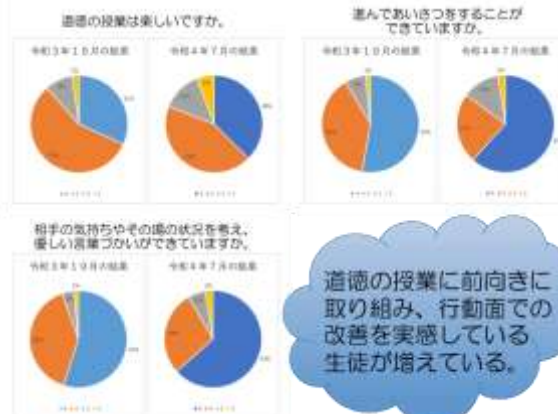
①道徳科に関わる環境づくり

道徳科に関わる環境づくりの一つとして、「私のこころざし」という題で、一人一人の生徒が将来の夢を用紙に記入し、各学級に掲示した。また、自分自身の夢の実現に向けた「3つの目標」を毎月立て、各教室前の廊下に掲示した。これらの掲示物を作成することによって、生徒の「立志の精神」を高めることを目指した。さらに、豊里中学校で過ごす中で、友達や先輩後輩、先生方に向けられた「嬉しかった言葉」「励まされた言葉」「前向きな気持ちになれた温かい言葉」や、それにまつわるエピソードを各学年で記入し、校内に掲示した。この掲示物を作成することで、生徒の「忠恕の心」を育てることを目指した。



②アンケートの実施

道徳アンケートにより、生徒の実態を把握するとともに、それをういて授業の検討等を行った。アンケート結果から、生徒が授業へ前向きに取り組み、行動面での改善を実感している割



埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

合が増加傾向にあることがわかった。一方で、「道徳の授業では、自分と違う考え方や感じ方があることを知ることができましたか」の質問項目では、「4. そう思う」を選択した生徒の割合が減少していた。このことから、道徳の授業のみならず、全教育活動を通して生徒同士の対話を積極的に取り入れ、多様な意見や考えに触れることができるようにした。

5 研究の成果と課題

(1) 【仮説 1 について】

成果 ・授業の構成の方法や発問の考え方などを、担任だけでなく全職員で取り組むことで授業改善につながった。また、生徒自身が振り返りをよく行い、自己理解を深めることができた。

・郷土教材を取り入れた授業を行うことで、地域への関心が高まり、地域と関わりの中で日常的にあいさつをする機会が増えたことで「規律ある態度」あいさつなどの取組に上昇傾向がみられた。

課題 ・今後も継続した道徳的価値に迫る発問を考えていくこと。

・効果的な座席の配置や ICT を活用した授業の展開を考えること。



(2) 【仮説 2 について】

成果 ・小中が連携することで、生徒と児童の交流ができ、心の成長につながる活動ができた。

・深谷の子「6つの誓い」の一つ一つに焦点を当てることで、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。

・SSTにより、さらにコミュニケーション能力が向上し、日頃の生活に生かそうとする生徒が増えた

・夢に向かって取り組む掲示を教室に貼ること、夢に向かって努力する生徒が増えた。

課題 ・日頃の生活に生かすことを見届け、称賛し、認める活動を行っていくこと。

・小中の連携をさらに深めて、活動の幅を広げていくこと。



(3) 豊里中学校区 3 校での取組の成果と課題

成果 ・栄一翁の立志の精神と忠恕の心を受け継ぐ、深谷の子「6つの誓い」の実践を小中 共通の活動として取り組んできました。アンケート項目において、生徒の意識の高まりがみられたことにより、ふるさとに愛着をもち豊かな心を育むことができた。

課題 ・3校で児童生徒の交流の機会を増やすことにより、ふるさとに対する愛情を一層深めていくこと。